

1. 幼稚園の運営

- (1) 所在地：水戸市緑町三丁目九番 36 号
- (2) 定員：140名 利用定員(水戸市に報告定員)：105名
- (3) 職員数：25名
常勤(13名→12名)：理事長1名、園長1名、主任教諭1名、教諭8名、管理栄養士1名
運転手1名→運転手0名
非常勤(12名→13名)：教諭6名、調理員4名、園バス運転手2名→3名
- (4) 嘱託医：石田哲郎(外科・胃腸内科)、横須賀均(歯科)
- (5) 理事：理事長＝松本智昌 理事＝松本晴子(業務執行理事)、菊池京子、鬼沢力男、
星野光利、星野吟子
- (6) 監事：萩野谷興、安昌美
- (7) 評議員：菊池京子、松本智昌、二木朋昭、小池貞、横須賀均、鬼沢力男、真中恵美
松本晴子、星野光利、金丸隆太、高野秀樹、藤山修、坂入麻衣

2. 教育理念 神様に愛されている幼子、そして育てている保護者が喜びに満たされる生活を
送れるように、今を大切に生きること。

年間テーマ

『ことばに満たされて～ひびきあう～』 その人は流れのほとりに植えられた木。 詩編1編3節

教育課程

- 一学期**： 出会いが保障され、出会いが意識化されることによって、喜んで自分の存在を受け
容れてくれる存在がいることを、知っていく。
- 二学期**： 自然の中に感動を得、物事への興味を育み、他者を含め共に生きる存在が
いることを前向きに喜んでいく。
- 三学期**： 自分を前向きに捉え、自分と違う存在が居ていいという肯定感を持ちつつ、
仲間と共に何かを創りあげていく喜びを知る。

3. 保育時間

- 通常保育： 8時30分～14時
一時預かり保育： 8時から8時30分。保育終了後～17時30分(長期休業 8時～17時30分)

4. 職員と園児数

- (1) 幼稚園経験者採用1名 保育者大卒(常勤) 保育園経験者採用1名 保育者短大卒(非常勤)
訃報 二木朋昭(運転手・評議員)
- (2) 園児数月ごと変化 105名－108－109－109－108－111－113－114－114－114－114

5. 主な行事 / 金曜日 礼拝 / 月ごとに 誕生会 / 各避難訓練

一学期	二学期	三学期
新入児二者面談	遠足	保育参加 学校見学
親子遠足	運動会	積木ワークショップ
植物栽培／クッキング	さつまいも堀遠足	もてなしクッキング
木工	クッキング	観劇会(劇団風の子)
保育参観	消防署訪問	ひなまつり会
プール	こどもまつり	親子給食会食会
お泊まりキャンプ	クリスマス会	歩く会
個人面談	親子陶芸(子育て支援事業)	卒園・終了式

6. その他の活動

水戸市合同説明会 6月25日(火) 見川総合体育館
入園説明会 10月5日(土)
にじいろチャイルドの会 園児観察2回・支援者ムービー観察6回・保育者講座2回
保護者対象5回 (茨城大学大学院 金丸隆太先生)
おはなしはらっぱ 年長児対象 実施回数7回 (茨城キリスト教大学 原口なおみ先生)
未就園児親子くらぶ (つくしっこくらぶ) 実施回数14回
子育て相談 8月 3月以外毎月 実施回数13回
園庭開放 (木もれびの庭) 7回
ホームページ月ごとに更新/グループや年齢の担任よりメッセージと写真を掲載
教育実習生受け入れ 2人 (茨城キリスト教大学児童教育学科)

7. 2019年度の主な環境に関わる支出経費

園庭剪定費用・桜の手入れ 砂場用砂 階段脇落下防止ネット
(打楽器 ベンチ 加湿器 絵本 劇団招聘 LaQ ボブルス) など
()内はバザー収益や卒園記念

8. 今年度の保育評価

満3歳児から5歳児までの混合クラスが4クラス。2019年度はここ数年の中ベストな体制で臨めた数少ない一年であったと振り返っている。園児数が各年齢バランスがよかったこと。女子の入園者が増えて男女比の差が縮み、保育がやりやすかったこと。個別支援のご家庭との信頼関係が良好で、お子さんたちの成長も目に見える形で示され、保護者がそれを喜べたこと。他の機関を保護者と一緒に園長が見学させていただいたり、園内を見に来てくださったりと、気軽な連携が出てきたこと。どのお子さんをも支えたいという保護者の意識があったこと。園内研修を写真や動画を使って想いを語る形を試し一定の効果があったこと。新しい人材を受け入れて試行錯誤しながらも、それぞれのよさを知っていったこと。感染症の流行がなかったこと。水戸幼稚園を支えてくださるスタッフに恵まれていたこと。年次有給休暇の取得を勧めたり、整備したりしたこと。

気になったことは、当園ですずっと働いてきた方と別の園で働いてきた方との仲間づくり。週一回のミーティングの雰囲気知らないことで、文脈が伝わりにくい非常勤の職員との共有意識。クラス担任と役員の方々との連携方法。それぞれ悩み課題を抱えていたが、皆問題化することを避けるため、目立って表立ちはしない。しかし温度差を感じたり、変化すると大変になるという空気として漂いやすい。どこの事業所でも悩むところであろう。「いつもこうしてきた」という概念が、新型コロナウイルスの2月流行により打ち破られていったのは、不思議である。

保育者の事務負担は軽減されているが、そういう意識は各々に薄いという実態があり、園長が前面に出て指揮を執る形を薄くしていく必要を感じている。自分たちの課題を改善したいという方向が要と考える。災害共済を利用する怪我は1件あり。現認していたが報告が曖昧であったことの影響が、受診時あった。保育料の無償化。預かり保育の新2号の設定など、事務はますます複雑で手ごわくなる。市町村や県への報告事項も増加。

食物アレルギーでの対応は、引き続き個別対応を徹底した。偏食対応まで行えたことはプラス。報酬面では、賃金改善手当2を引き続き取り入れる。

園児募集はつくしっこくらぶに集まる方がメインとなる。好評であったが入園募集人数には届かず。また、女兒が激減する。